



山田 聡 先生

略歴

1991年 3 月 大阪大学歯学部卒業
1995年 3 月 大阪大学大学院歯学研究科修了 博士（歯学）
1995年 4 月 米国国立衛生研究所（NIH）研究員
1996年 2 月 日本学術振興会海外特別研究員
1999年 1 月 日本学術振興会特別研究員
2002年10月 大阪大学大学院歯学研究科 助手
2004年 3 月 大阪大学歯学部附属病院 講師
2017年 5 月 東北大学大学院歯学研究科 教授

生物学的機能から考える新しいセルフケアの実践

東北大学 大学院歯学研究科 歯内歯周治療学分野
山田 聡

歯周病治療においては、患者および医療者によるプラークコントロールが非常に重要であり、歯周基本治療は、全ての歯周病患者に対して行う歯周治療において必須の基本的な歯周治療となる。その目的は、歯周病の病因因子とリスクファクターを可及的に排除して歯周組織の炎症を改善し、その後の歯周治療の効果を高めることである。歯周基本治療は、その後の歯周治療を成功に導くための重要な原因除去治療として位置づけられ、治療に対する患者のモチベーション（動機づけ）を形成し、治療への理解・協力を得るための過程となる。

歯周病は、歯周病原性細菌をはじめとする様々な細菌により形成されるプラーク（バイオフィルム）を原因とする慢性炎症性疾患である。プラークにより惹起された炎症反応が、遷延化することで、歯の支持組織である歯槽骨や歯と歯槽骨間に介在する歯根膜組織などの歯周組織において、不可逆的な組織の破壊が進行する。我々は、これまでに、歯周病の発症や進行を防ぐ物質として、天然の植物イソキノリンアルカロイドの一種でオウバクの抽出物であるBerberine（オウバクエキス）に着目し、歯根膜細胞におけるその生物学的作用を解析してきた。歯根膜細胞は、線維芽細胞、骨芽細胞、セメント芽細胞、未分化間葉系幹細胞等で構成される歯根膜由来の細胞であり、コラーゲンを産生し歯根膜を形成することや硬組織に分化し歯槽骨を形成することが報告されている。解析の結果、オウバクエキスは、歯根膜細胞をはじめとする様々な歯周組織構成細胞に対して生物学的作用を有していることが明らかとなった。最近、このオウバクエキスを含有した新しい歯磨剤が発売された。オウバクエキスの歯周病に対する生物学的な効果が期待される。

本セミナーでは、歯周病の成り立ちを再度、確認するとともに、歯磨剤の持つ様々な生物学的な作用をより深く理解することで、歯周病治療を成功へと導く、セルフケアを中心とした患者のモチベーション形成の重要性とその実践を論じたい。